

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鳥栖市立麓小学校
1 前年度 評価結果の概要	○学力の向上については、どの学年においても、興味をもって課題に向かうことができるようになってきたが、「自ら問題を見出したり、解決したりした。」と実感できた児童は目標値には達しなかった。さらに高い水準を目指して取組を推進したい。 ○心の教育については、今年度も地域の方との交流や栽培活動、集会等を通して、人権や共生、生命尊重等についての意識を高めるよう努めてきた。PTAの命についての講演会もよかったとの声を多くいただいた。いじめ対応についても、未然防止や初期対応の大切さを職員全体で認識し、こまめに情報共有を図りながら組織的に対応できたと考えるが、SNS関連の事案については保護者への啓発等が続けてより意識を高めていく必要がある。児童が将来の夢や目標について意識したり考えたり、自己肯定感を向上させていくような取組を充実させていきたい。 ○健康・体づくりでは、運動習慣については、担任の取組や児童の委員会活動での企画等で外で遊ぶ児童が前年度と比べ増加したが、真夏の外での活動は熱中症対策等で児童の健康に気を遣うことが多かった。これからの時代は、夏場にも安心して運動ができる環境の整備（体育館の冷房完備等）が求められると考える。食育についても、授業や給食委員会の取組等で食事に関する関心は高まっている。また、安全についても職員相互における事故についての事案の共有をもとに機会あるごとに指導を続けてきたことで大きな事故は起きなかった。 ○業務改善・教職員の働き方改革の推進については、会議等の回数や時間の削減、資料のデジタル化、余剰時間数の見直しと校時の変更等で職員個々の業務時間確保を進めることができた。しかし、人員不足等の問題もあり前年度よりも時間外在校等時間の削減はできなかった。子ども達との時間に心の余裕を持てるように、教職員の働き甲斐の充実につなげるためにも更に工夫や働きかけが必要であると考える。 ○特別支援教育の充実については、授業参観や授業研究会、研修会を通して、全職員の専門性を高めることができた。また、よりよい支援・指導のために保護者や関係機関との話し合いを行い情報の共有を図ってきた。 ○小中一貫教育の充実については、授業公開を通して教科「日本語」のよさを伝えることで保護者や地域の方々の関心が徐々に高まっていると考える。教職員の連携を図って小中一貫教育の推進も行っているが、具体的に取組やそのよさ、意義等をうまく伝えられるようにしたい。

2 学校教育目標	「ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしこく・たくましく生きる麓っ子の育成」
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	◎ 子どもの「心」を育む ○ 豊かな体験活動の充実 ○ 小中一貫教育・幼保小連携の推進 ◎ 子どもの「学び」を育む ○ 教科「日本語」の充実 ○ 食育指導の充実 ◎ 子どもの「体」を育む ○ 学力向上（理数教育） ○ コミュニティ・スクール定着・推進 ○ 体力向上の取組 ○ GIGAスクールの更なる推進 ○ 特別支援教育・人権教育の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童が学ぶことの楽しさに出会える算数科や理科の授業作りの実践	○理科や算数の授業で、「自ら問題を見出したり、解決したりした。」と実感できた児童の割合が90%以上	・学びにくくなるように単元の導入時に問題の提示の工夫をする。 ・学習のふり返りの視点を示し、ふり返りを次の授業の導入に活用したりすることで、これまでの学びや経験を学習に生かそうとする意欲や態度を育成する。 ・子ども達の話し合い活動(アウトプット・インプット)を充実させ、児童の言葉で授業を進め、主体的な態度の育成に努める。	・		・		・	【学び育てチーム】		
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権・同和教育に関する学習等を通して、子どもの豊かな心が育てられていると、アンケートにて肯定的な解答をした保護者が90%以上	・人権学習を児童の発達段階に応じて実施し、人権意識の向上を図る。 ・授業参観にて「ふれあい道徳」として、全通常学級で授業公開を行い、家庭と連携を図って豊かな心を身に付けさせる。	・		・		・	【心育てチーム】		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み、事案対処等)について組織的対応ができていると解答した教員90%以上	・いじめ早期発見のため「なかよしアンケート」を月に一度実施する。 ・年度の始めにいじめや差別的事象への対応について職員研修を行う。週に一度、生徒指導協議会で支援の必要な児童を共有する。	・		・		・			
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と、アンケートにて回答した児童が90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」にアンケートにて肯定的な回答をした児童90%以上	・授業中の児童の言動や児童の作品等に肯定的な評価をしたコメントをする。 ・将来のことや中学生生活を知るために、キャリア教育や中学生との交流を年間を通して行う。 ・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修を算数科や理科を中心に実施する。	・		・		・			
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で外で遊んだりやスポーツをしたりすることが1週間で4回以上の児童80%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童70%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童80%以上	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)、昼休みや業間休みに外遊びの声かけを行ったりする。また、「麓っ子体力アッププロジェクト」に取り組み、雨天時や猛暑日が続いた場合にも運動時間を確保できるようにする。 ・給食時の放送やリーフレットを活用し、食事に対する関心を高める。 ・交通安全教室を行ったり、校内外の危険箇所を知らせることで交通規則の遵守と児童の安全に関する意識を高める。 ・「麓っ子ががんばり表」を活用し、継続的な指導を行う。	・		・		・	【体づくりチーム】		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守している職員の割合100% ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日を定時退勤日とし、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・長期休業中の目標年次取得日数を具体的に示す。さらに指導教諭と連携し、長期休業中の行事や研修会の精選、集中的に行う期間を設ける。	・					教頭		
	○ワーク・ライフバランスの充実	○「自身の心身をリフレッシュさせる時間を設けることができたか」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上	・個々の様々なリフレッシュの仕方の交流を定期的に行う。 ・情報誌「すまいる」を紹介したり回覧したりしてリフレッシュする方法を伝える。	・		・		・	教頭		
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の確立のための教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施(4月・7月・11月)し、教員の専門性を高める。 ・必要に応じてケース会議を開き、手立てを共有し、個に応じた指導を行う。	・		・		・	【特別支援学級担当】		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率が90%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率が90%以上	・授業参観や学校だより、学年・学級通信等を通して、教科「日本語」の実践を保護者や地域に広める。 ・小中一貫教育担当者との定期的な情報交換をし、西中校区としての相互の授業参観を行い、共通の取り組みを推進する。	・		・		・	主幹教諭・指導教諭		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--